

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表
《高知市地域：第1四半期》

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>1 キュウリの生産販売対策の強化による産地振興</p> <p>県内一のキュウリ産地の維持のため、生産から流通・販売までの課題解決に取り組み、産地基盤の強化と農家所得の向上による経営安定を図る。</p> <p>【JA高知春野、JA高知春野キュウリ部会】</p>	<p>○高収量、高品質化等への対策に取り組み、販売額もほぼ目標とする水準を維持している。</p> <p>○担い手確保対策が構築されつつある。</p> <p>◆産地の維持拡大 ◆生産の高収量・高品質化・コスト高騰等生産性向上対策 ◆農家所得向上のための流通・販売対策</p>	<p>・天敵利用勉強会2回、天敵試験ほ場調査26回(8ほ場) ・炭酸ガス利用効果実証調査5回、炭酸ガス利用春野管外事例調査2回 ・指導農業士の推薦 ・研修予定者の研修開始</p>
<p>2 グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興</p> <p>栽培管理の徹底による採花率・高品質の安定化と、新品種(県育成品種:オレンジハート)の栽培技術確立により周年出荷体制を進め、品種の多様性を活かした販売対策を強化し、日本一のグロリオサ産地の活性化と農家所得の向上を図る。</p> <p>【JA高知市、JA高知市三里園芸部花卉部会】</p>	<p>○球根肥大不良の解明に向け、関係機関が一体となった取り組みができてつつある。</p> <p>◆生産の高収量(高採花率)・高品質化・コスト高騰対策 ◆消費者ニーズに応じた多様な品種の周年出荷対策</p>	<p>・主要市場2社を招いた販売検討会1回 ・出荷目慣らし会1回 ・プロジェクトチーム会1回</p>
<p>3 生産と販売促進対策の強化による消費地に選ばれるユリ産地の振興</p> <p>消費地ニーズに基づいた生産出荷対策を強化し、有利販売による農家所得の向上を図る。</p> <p>【JA高知市、JA高知市長浜支所園芸部花卉部会、JA高知春野、JA高知春野花卉部会球根部会】</p>	<p>○高収量、高品質化等の対策や省エネ対策の取り組みが進みつつある。</p> <p>◆生産の高収量・高品質化・コスト高騰対策 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策</p>	<p>【JA高知市長浜支所園芸部花卉部会】 ・目慣らし会2回 ・高知市営農支援事業による蒸気土壌消毒機の導入</p> <p>【JA高知春野花卉部球根部会】 ・目慣らし会13回 ・市場との販売検討会2回</p>
<p>4 イチゴの生産販売対策の強化による産地振興</p> <p>生産安定対策(夏場の育苗、冬期の品質向上など)や新たな販売戦略の実践による介良イチゴの知名度アップと農家所得の向上を図る。</p> <p>【JA高知市、JA高知市介良支所苺部会】</p>	<p>○生産面では、「さがほのか」から「紅ほっぺ」への移行が進み、販売では、業務用出荷が本格的に始まった。</p> <p>◆生産安定対策(品種特性に応じた栽培管理への誘導、炭そ病対策の推進) ◆介良ブランドをPRする流通・販売対策</p>	<p>・品種特性に応じた育苗管理への誘導(現地検討会:6/24) ・炭そ病対策講習会(苺部総会:5/27、現地検討会:6/24) ・育苗管理の個別巡回指導(4~6月)</p>
<p>5 ナシ産地の振興とブランド強化</p> <p>針木産新高梨のブランドをブラッシュアップし、全国展開できるブランド力を育成する。また、生産の障害となっている鳥獣被害対策や産地を支える経営体の育成に取り組み、持続的な発展を目指す。</p> <p>【JA高知市、針木梨組合】</p>	<p>○高収量、高品質化等の対策が進んできた。</p> <p>◆生産の高収量・高品質化・コスト高騰対策 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策</p>	<p>・共同出荷体制整備に向けた視察研修実施支援 ・生態基礎調査実施 ・鳥獣害対策検討会開催 ・栽培技術指導(講習会) ・高温対策実証試験実施の検討</p>
<p>6 時代のニーズに対応できる早期米産地の振興</p> <p>地球温暖化に対応した栽培技術の徹底や実需者ニーズに応じた新たな設備投資など、産地基盤の強化による農家所得の向上を図る。</p> <p>【JA高知市、JA高知市稲作部会】</p>	<p>○リレー出荷体制(南国そだち→ナツヒカリ→コシヒカリ)が充実し、販売額もほぼ目標とする水準を維持している。</p> <p>◆地球温暖化に対応した栽培技術対策 ◆実需者ニーズに応じた品質向上対策 ◆稲作を中心とした集落営農組織への生産コスト低減対策</p>	<p>・実証ほの設置・調査 水稲奨励品種:1か所 白未熟粒対策:肥料、ケイ酸資材:合計5か所 密播疎植栽培:1か所 栽培講習会:4回開催 現地検討会:1回開催 防除機(無人ヘリ)導入支援 生育状況調査:7回実施</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・天敵利用取り組み農家は33戸で、28戸が成功した。天敵利用勉強会は計37名が参加し、内本年度取り組んでいない農家は13戸であった。次年度の取り組みは50戸程度に増加する見込みである。 ・炭酸ガスによる増収効果は6%であった。 ・指導農業士に新たに3名を推薦した。 ・研修生1名が4月から研修を開始した。 		<p>【指標】出荷量 (H23園芸年度: 10,500t)</p> <p>【目標(H27)】 H27園芸年度 11,000t</p> <p>【H26到達点】 11,000t</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・販売検討会に27人が参加し、年間出荷スケジュールを共有した。 ・出荷目慣らし会に20人参加し、品質安定への意識統一をした。 ・球根管理等の年間活動スケジュールの作成及び実証の開始。 		<p>【指標】販売額 (H23園芸年度: 74,000万円)</p> <p>【目標(H27)】 H27園芸年度 80,000万円</p> <p>【H26到達点】 76,000万円</p>
<p>【JA高知市長浜支所園芸部花卉部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会延べ22人参加 ・蒸気土壌消毒機2台導入 <p>【JA高知春野花卉部球根部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目慣らし会延べ80人参加 		<p>【指標】販売額※高知市全体(長浜+春野) (H23園芸年度: 42,000万円)</p> <p>【目標(H27)】 H27園芸年度 46,000万円</p> <p>【H26到達点】 45,000万円</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・苺部総会、現地検討会のべ参加人数24名 		<p>【指標】販売額 H23園芸年度: 10,900万円</p> <p>【目標(H27)】 H27園芸年度 12,000万円</p> <p>【H26到達点】 10,000万円</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・生態基礎調査による把握 ・鳥獣害対策検討会参加(13人) ・講習会参加(29人) ・高温対策実証試験開始 		<p>【指標】生産量 (H23年産: 500t)</p> <p>【目標(H27)】 H27年産: 550t</p> <p>【H26到達点】 440t</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・栽培講習会参加(81人) ・現地検討会参加(8人) ・生育状況の把握と指導への活用 		<p>【指標】 販売額 (H23年産米: 49,541万円) 出荷量 (H23年産米: 2,660t)</p> <p>【目標(H27)】 H27年産米: 45,000万円、2,500t</p> <p>【H26到達点】 45,000万円、2,500t</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>7 新ショウガの生産振興</p> <p>県内一の新ショウガ産地における生産・出荷体制と販売・消費拡大など、産地基盤の強化と農家所得の向上を図る。</p> <p>【JA高知春野、JA高知春野ショウガ部会】</p>	<p>○出荷場の水源確保ができ、最盛期でも水不足による作業中断がなくなった。</p> <p>○栽培面積や出荷量は増加傾向である。</p> <p>◆収量品質向上技術及び販売戦略の確立</p>	<p>・販売促進活動 4回</p> <p>・市場交流会 1回</p> <p>・新ショウガ販売会議 1回</p> <p>・出荷目慣らし会 3回</p> <p>・現地検討会 2回</p>
<p>8 ユズを核とした中山間農業の活性化</p> <p>中山間地域の基幹品目であるユズの生産拡大と高品質化を目指し農家経営の安定化を図る。また、食品産業との連携による6次産業の強化を目指す。</p> <p>【JA高知市、JA高知市土佐山柚子生産組合】</p>	<p>○ユズ搾汁施設の改修により加工体制が強化され、また、大口需要者との継続的な取引が実現し、販売も安定する等一定の成果が見られた。</p> <p>また優良母樹の確保対策なども、ほぼ計画どおり進んだ。</p> <p>◆生産の安定、高品質化対策と核となる担い手の育成による生産基盤強化</p> <p>◆食品産業等との連携強化と消費者ニーズに対応した商品開発</p> <p>◆加工需要に応える産地の形成</p> <p>◆生産者の高齢化等に伴うユズ園の台帳管理と更新</p>	<p>・チーム会により情報の共有化(3回)。</p> <p>・ユズ栽培情報誌の内容検討。</p> <p>・省防除実証ほ設置・調査。</p>
<p>9 四方竹のブランド化による中山間地域の振興</p> <p>全国的に希少性の高い四方竹を高知県のブランド品として育て、中山間地域の産業として振興するため、加工施設の整備等により、生産と地域加工の促進を図る。</p> <p>【JA高知市、JA高知市特産部会(セツ瀧筍加工組合、土佐山四方竹生産組合、鏡特産部会)、(一財)夢産地とさやま開発公社】</p>	<p>○生産量は順増し、過去最高となった。</p> <p>また、商品性のアップを目指し、消費期限の延長や調理済み加工品の開発に取り組み、高級量販店が真空パック商品に興味を示すなど、販路拡大の動きも具体化している。</p> <p>○振興計画推進に向けたチーム設立案が合意された</p> <p>◆生産拡大に伴う加工能力の増強および適正化</p> <p>◆特産品としての魅力アップ</p> <p>◆中山間地域農業の6次産業化モデルへの挑戦</p> <p>◆生産拡大に伴う販売単価の下落への対応</p>	<p>・関係機関との打ち合わせ(2回)</p> <p>・地下茎調査(4回)</p> <p>・自動選別機協議(1回)</p>
<p>10 「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興</p> <p>(一財)夢産地とさやま開発公社を中心として、有機・無農薬野菜などの生産と販売および加工品の開発・販売の取組を通じて農家所得の向上と地域の活性化を図り、土佐山百年構想を推進する。H24年度に増強工事を行ったとさやま土づくりセンターで生産される堆肥の安定供給を図り、高付加価値作物の生産を中心とした有機農業を促進する。</p> <p>【(一財)夢産地とさやま開発公社 等】</p>	<p>○首都圏をはじめとした有機農業分野での取引業者の拡大</p> <p>○土づくりセンター増強整備に伴い、堆肥の増産が可能になったため、H25年度から中山間地域を中心とした需要に対応できる体制となった。</p> <p>○H26年度に整備を行った新加工施設により、ジンジャーエールの生産体制の拡充及び衛生環境の向上が図られた。</p> <p>◆農家及び公社の所得の向上</p> <p>◆新たな加工品の開発と新加工施設の整備</p>	<p>・生産農家の訪問・指導:計23件</p> <p>・6次産業化(新加工場整備2期計画) 6次化チーム会による検討会実施(6/19)</p> <p>・首都圏のホテル・スーパーなどとの商談の推進</p>
<p>11 直販店を核とした鏡地域の活性化</p> <p>高齢化に伴って販売額が伸び悩んでいるため、需給ギャップの解消や新規顧客開拓など、消費者ニーズに基づく活力ある直販所づくりと農家所得の向上を図る。</p> <p>【鏡村直販店組合】</p>	<p>○生産履歴記帳率100%となり「安心・安全」な直販所としてPR</p> <p>○品薄期解消に向けた対策が一部できた</p> <p>◆生産農家の高齢化による出荷量および品目の減少と需給ギャップ</p> <p>◆消費者ニーズに基づく直販所と生産体制づくり</p>	<p>・普及指導協力員を活用した料理講習会の開催 2回</p> <p>・産業振興アドバイザー制度を活用したクレーム対応研修会の開催 1回</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・販売促進活動(量販店3(東京・兵庫・香川)、市場1(東京)、部会等参加者計15名) ・市場との交流会(市場7社、参加者28名) ・販売会議(参加者13名) ・出荷目慣らし会(参加者計50名) ・現地検討会(参加者計37名) 		【指標】販売額 ※露地ショウガ含む (H23園芸年度:92,300万円) 【目標(H27)】 H27園芸年度 120,000万円 【H26到達点】 95,000万円
<ul style="list-style-type: none"> ・ユズ栽培情報誌による情報提供(3回)。 		【指標】販売額 (H19:16,090万円) (H22:19,226万円) 【目標(H26)】 19,000万円 【H26目標】 19,000万円
		【指標】販売額 (H19:3,360万円) (H22:3,982万円) 【目標(H27)】 4,000万円 【H26到達点】 4,000万円
		【指標】(H22実績)販売額 8,400万円 【目標(H27)】 10,720万円 【H26到達点】 9,800万円
<ul style="list-style-type: none"> ・料理講習会参加人数 17人 ・クレーム対応研修会参加人数 48名 		【指標】販売額 (H22:16,454万円) 【目標(H26)】 17,000万円 【H26到達点】 17,000万円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大</p> <p>ニーズの高い総菜加工の充実や地域内の農産物を活用した新たな加工品開発の拠点とするとともに、食農教室や料理教室の開催など地域住民の農業への関心を高める活動、バイキングレストランの開催など地産地消の拠点施設として「新農村婦人の家」の機能強化を図る。</p> <p>【JA高知市、JA高知市女性部】</p>	<p>(H24)○実行支援チーム会の開催、県アドバイザー制度の活用により、加工施設に併設する直販所「らぶ」を含めて販売強化計画を作成し、様々な改善に向けて関係者の意識が前向きに変化している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売額18,990千円(H23対比110%) ・新規メニュー5品(小パック販売、井物の秋バージョン、ライスピザ、米粉を使った蒸し物、塩麴を使った料理) ・新規従事者2名の確保 ◆施設改修に係る産振補助金活用に対する支援 ◆販売強化計画の実践支援 <p>(H25)○実行支援チーム会を開催して施設改修に係る産振補助金の導入と販売強化計画の進捗を支援し、年度目標を順次クリアしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売額22,032,334円(H24対比116%) ◆施設改修工事の完了 ◆新たな加工品開発 ◆販売強化計画の見直しとフォローアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・JA女性部等代表者打合せ会の開催 1回
<p>13 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出</p> <p>地場産品を活用した安心・安全な生乳加工品を消費者に提供するとともに、観光地や教育の場として牧場を活用するなど、新しい酪農経営のモデル牧場を創出する。</p> <p>【高知市酪農農業協同組合】</p>	<p>○店舗の知名度も徐々に上がり、店舗はもちろんのこと、県庁生協等店舗外での売上金額も増えてきている。また、原則毎月一回開催(雨天の場合中止)しているオープンファーム等のイベントによって、牧場を身近に感じてもらう取組も始めている。</p> <p>○酪農教育ファームの受け入れは増加傾向で、酪農を身近に感じることでリピーターの増加につながりつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規顧客の開拓とリピーターの確保 ◆顧客ニーズにあった商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続したイベント開催による認知度の向上(オープンファーム、酪農教育ファーム等) ・城西館が行う「とき恋ツアー」の商品づくりに係る協議及び現地視察(4月) ・店舗外販売の取組み(こうち生協、ネット販売等) ・商談会への参加による販路開拓活動(6月) ・高知大学と連携した集客方策検討に係る打ち合わせ(6月)
<p>14 森の工場を核とする素材生産量の拡大</p> <p>搬出間伐を中心とする素材生産量の増大や、生産性の向上に取り組むとともに、素材生産の拡大に必要な作業実行体制(他事業者との連携協力を含む)の強化につなげる。</p> <p>【高知市森林組合】</p>	<p>○森の工場内での間伐面積等は増加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆施業拡大に向けた森林組合の人員体制の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度の素材増産のための森林整備事業について、市町村、森林組合及び林業事業者への説明会等を実施(3回) ・森の工場の新規事業計画作成に向けた取組み
<p>15 県産材を使った安心・安全の木造住宅の普及促進</p> <p>高知市地域の森林から生産された木材を使った木造住宅(こうち里山の家)の販売・普及促進に取り組む、木材の地産地消を推進する。</p> <p>【木の家ネットワーク】</p>	<p>○こうち木の家普及推進協議会と共同で品質確保の県産材規格寸法による、規格モデル住宅図面を完成させ新たな活動の展開を行った。</p> <p>○高知県産木材の認証を構築し、「こうちモデルハウス里山の家」を具体的な活動の場として受注と広報活動を行った。</p> <p>○こうち木の家ネットワークの告知を実施し、継続的に受注体制を維持している。現在、進行中の設計受注のほか数件の用地斡旋を展開中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ネットワーク母体の体質強化と会員のスキルアップ ◆県産材に対する信頼性の向上と里山の家等の認知度アップ ◆規格モデル住宅の積算及びPR・販売促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回会員同士の打ち合わせによる組織体制の見直し ・新しいホームページによるPR促進
<p>16 春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上</p> <p>新たな価値を創造する野菜・果実の地区内生産と地区内農産物を活用した新たな加工品を開発するとともに、当該加工品の新たな販路確保による農家所得の向上、雇用の創出による地域の活性化を図る。</p> <p>【(有)スタジオ・オカムラ、連携農家】</p>	<p>○積極的な販路開拓や新たな商品開発を続け、有名百貨店の商品企画やギフトカタログで連続採用されるなどの成果があがっている。</p> <p>○首都圏の高質系スーパーのPB商品の出荷が始まるなど、連携農家の生産品を活用した商品の売上が増加している。</p> <p>○地元柑橘農家オリジナルサイダーの生産を受注するなど、地域の農産物生産者と連携した取組が進んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆加工品の安定生産と販路の確保 ◆新たな加工品の開発 ◆加工の原材料となる農産物の安定生産 	<ul style="list-style-type: none"> ・お中元ギフト向け通販を運営する百貨店等に販路開拓の取組 ・「高知県地域産品商談会」への参加のほか、中小企業基盤整備機構の支援も得て食品製造企業と商談を進めるなど幅を広げた販路開拓の取組 ・ピカンテペッパー契約栽培農家への育苗指導

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・JA女性部等代表者打合せ会参加人数 7人 		【指標】販売額 (H22:1,500万円) 【目標(H27)】 2,500万円 【H26到達点】 2,400万円
		【指標】店舗の販売額 (H22:817千円) 【目標(H27)】 1,600万円 【H26到達点】 1,400万円
<ul style="list-style-type: none"> ・素材増産のために必要な森林整備事業に係る情報共有が図れた ・高知市森林組合が森の工場の事業計画を新規(横矢地区)に策定し、施業集約化を図ることとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森の工場面積は3団地計1,453haとなった。 	【指標】森の工場面積 (H22:1,174ha) 素材生産量 (H22:1,707m ³) 【目標(H27)】 1,500ha 4,000m ³ 【H26到達点】 1,400ha 3,400m ³
<ul style="list-style-type: none"> ・組織体制を見直したことによりネットワークの運営方針(ベクトル)が浸透。規格モデル住宅販売の接客方法等の統一が図れるようになった。 ・ホームページ閲覧による来客者があった 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月末時点で改装中2件、建築中2件、相談中10件。 	【指標】こうち里山の家の受注 (H22:2棟) 【目標(H27)】 20棟 【H26到達点】 10棟
<ul style="list-style-type: none"> ・有名百貨店等中元通販カタログへの採用 		【指標】販売額 (H22:0) 【目標(H27)】 9,400万円 【H26到達点】 6,000万円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>17 地域の食材を活かした包あん食品の開発・製造・販売</p> <p>農産物を中心とする地域の食材を活用した包あん食品を開発し、製造・販売を進める。</p> <p>【(株)高南食品】</p>	<p>○文旦や生姜の大福のほか、OEMでは地域特産の豆や茶を活用した大福を製造し、地域の特産品づくりにつながっている。</p> <p>◆新たな販路開拓と新商品の開発</p>	<p>・OEM生産大福製造の取引先の拡大</p>
<p>18 県産竹材を用いた新規分野への製品展開</p> <p>高知県産の竹を使用した竹集成材等の製造技術を活かした新製品の製造を行い、地域経済の発展と雇用の拡大を図る。</p> <p>【(株)コスモ工房】</p>	<p>○自動車用ハンドルの材料となる竹ラミナの需要は堅調に推移しており、H25は竹材の安定供給化に取り組んできた。須崎地区森林組合の事業も軌道に乗り、供給体制が整った。</p> <p>◆竹シート等新商品の国内外への販路拡大。</p> <p>◆竹林所有者の情報収集と伐採事業者との情報共有</p>	<p>・平成26年度こうち産業振興基金[高知県産業振興センター]の経営革新支援事業の助成決定(4月)</p>
<p>19 防災食の開発・製造・販売</p> <p>南海地震に備え、地域産品を原材料とする防災食の製造を行う。</p> <p>【高知県食品工業団地事業協同組合の企業など】</p>	<p>○新商品が完成し、県内外の防災展や食品展示会への出展を重ね、徐々に販路が広がっている。</p> <p>◆量のまとまりが期待できる販路の開拓</p>	<p>・保存用ミレービスケット・土佐のミリメンが、こうちふるさと寄付金の記念品、及び高知県庁カフェテリアプランの商品に採用された。(6月)</p>
<p>20 「弘化台ブランドの創出」地元鮮魚を活用した食品の製造・販売</p> <p>規格外の地元鮮魚を活用して食品加工を行い、弘化台ブランドとして販売していくことで、水産物の消費拡大を図る。</p> <p>【(株)永邦水産】</p>	<p>○主力商品が完成し、徐々に販路が広がってきた。商品の評価も上々であり、大手量販店などを中心に一層の販路拡大が期待できる。</p> <p>◆量のまとまりを目指した販路開拓</p> <p>◆新商品の開発</p>	<p>・介護事業所に対して介護食への採用のための商談開始(5/16)</p>
<p>21 地域の農産物を使った菓子類等の外商の推進</p> <p>地域の特徴のある野菜や果物など農産物を使った菓子類を首都圏で直販することで、農産物の知名度及び雇用の拡大を図る。</p> <p>【(有)マンジェ・ササ】</p>	<p>○全国版のテレビ番組や情報誌にも取り上げられ、県産農産物の魅力と活用法を広く情報発信した。</p> <p>◆野菜とスイーツの組み合わせなど意外性のある商品の消費者への浸透</p>	<p>・旬の県産農産物や高知の地酒など特産品を使ったスイーツを販売</p> <p>・4月に東京ソラマチ(スカイツリー)及び銀座三越高知フェアへ、6月に東急百貨東横店へ期間限定出店</p> <p>・売り場やマスコミ取材、ホームページ等において、製品説明だけでなく活用した特産農産物の魅力や、その産地・生産者の情報も発信</p>
<p>22 はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランに基づく中心部の活性化</p> <p>「おまちの再興」「観光客を呼べるまちづくり」を目指し、「東西軸エリア活性化プラン」に基づき、官民協働でプランを推進し、幅広い経済効果やビジネスチャンスに繋げる。</p> <p>【商店街振興組合など】</p>	<p>○新図書館、歴史系資料館において、進捗に遅れがみられるがその他については、概ね順調に推移している。</p> <p>○平成25年4月27日に高知よさこい情報交流館がオープン</p> <p>○平成25年11月1日～平成25年11月30日 第1回高知まちゼミ 開催</p> <p>◆民間事業の事業主体の確立、スピード化</p>	<p>・4/27高知よさこい情報交流館一周年記念セミナー開催</p> <p>・第2回高知まちゼミ開催(5/1～5/31)</p> <p>・6/4第4回東西軸エリア活性化プランフォローアップ委員会開催</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・県内特産の紅茶葉を使った大福の商品化	・茶葉生産者の6次産業化の取組と、地域の特産品づくりを支えるものとなっている。	【指標】 包あん食品の売上 【目標(H27)】 9,000万円 【H26到達点】 1,200万円
		【指標】 売上額 (H23:3,100万円) 【目標(H27)】 1.2億円 【H26到達点】 1.1億円
		【指標】 アイテム数 H24:6アイテム 【目標(H27)】 50アイテム 【H26到達点】 11アイテム
		【指標】 食品加工の売上額 (H23:0) 【目標(H27)】 2.5億円 【H26到達点】 1.5億円
・テレビ番組や雑誌で取り上げられるなど、数多いスイーツ店の中でもマスコミ等が注目する存在となっている。	・スイーツへの活用と食材の説明などを通じ、首都圏における小夏・ミョウガ・地酒など県産品の認知度向上にもつながっている。	【指標】 首都圏での売上額(H23:0) 【目標(H27)】 1.7億円 【H26到達点】 -
・高知よさこい情報交流館入館者数 78,659人(6月末現在) ・第2回高知まちゼミ開催状況 36店舗、43講座開講 参加者数475名		【指標】 商店街等の通行量(夏期・休日) (H20:5.6万人)(H22:5.8万人) 観光客の入込み客数 (H19:230万人)(H22:326万人) 空き店舗率 (H20:15.3%)(H22:13.4%) 【目標(H27)】 H20実績(5.6万人)以上を維持 300万人 H20実績(15.3%)以下を維持 【H26到達点】 H20実績(5.6万人)以上を維持 300万人 H20実績(15.3%)以下を維持

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>23 中心商店街でのアンテナショップの運営</p> <p>中心商店街で開設した常設のアンテナショップ「てんこす」の運営により、地域産品の販売を促進し、地域の生産者等の収入の確保につなげるとともに、各種の情報提供により、来街者の利便性の向上や商店街の売上げの増加を図る。</p> <p>【(株)まこと】</p>	<p>○高知市中心部にアンテナショップ「てんこす」を開設し、地域産品の掘り起こしや販売が進み、地産地消・地産外商の促進につながった。</p> <p>◆アンテナショップ「てんこす」の販売額の増加、アンテナショップを中心に事業者などとの連携による地域産品の積極的なPR</p>	<p>・魅力ある県産品の掘り起こし 26年4/1～6/23新規取扱商品93品目 登録アイテム数の累計4,684品目(6/23)</p> <p>・クルーズ客船の新港入港時の出張販売(26年度1回)</p> <p>・県外での地場産品販売 高松 5/10.11の2日間</p>
<p>24 多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり</p> <p>せり出し市等の多彩なイベントや、フラフ等による季節的な演出等により、おまちのにぎわいを創出する。</p> <p>【商店街振興組合など】</p>	<p>○効果のあるイベント等を継続して行い、商店街および周辺エリアの魅力を再認識してもらい来街者の増加を図る。</p> <p>◆集客力の向上 ◆リピーターの創出</p>	<p>・4月～5月 はりまや橋商店街において、休日によさこい鳴子踊りの披露を実施</p> <p>・4月～5月 「南国土佐の春」をテーマに、フラフ等で春の演出を実施</p> <p>・4月 大橋通り商店街において「お城下市」を実施</p> <p>・4月 よさこい情報交流館開館1周年記念イベントを実施</p> <p>・5月 「高知まちゼミ」を実施(36店・43講座・475人参加)</p> <p>・6月 毎週日曜日 まちなか・よさこいを実施</p>
<p>25 おまちに関する情報発信の充実</p> <p>おまちに関する情報を、より多くの人に届けるために、ガイドブック、ホームページ、ブログ等を幅広く活用し、総合的な情報発信を行う。</p> <p>【商店街振興組合】</p>	<p>○H23年に中心街ホームページ(よさこいタウン)のリニューアルを図り、ブログ、ツイッターによる新たな情報発信を開始するとともに、関係団体等との相互リンクを形成。</p> <p>○「おまちに特化した情報」を収集し試行的におまち情報を配信。</p> <p>○H25年に新設した中心街ホームページ(よさこいタウン)の商店街の魅力を伝える動画サイトを継続。また、中心商店街を気軽に散策してもらえるように、「OBIBURA MAP」を作成。</p> <p>◆おまち情報発信体制の確立 ◆観光の情報発信との連携</p>	<p>・中心商店街のホームページを活用したイベント情報の発信</p> <p>・おまちボードを活用した情報発信及びパンフレットの配布</p>
<p>26 中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上</p> <p>認定を受けた高知市中心市街地活性化基本計画に沿って、多様な主体の参画のもとに、中核市として、にぎわいと活力ある中心市街地の再生を目指し、都市機能の増進と経済活力の向上を図る取組を進める。</p> <p>【高知市】</p>	<p>○平成24年11月30日付けで高知市中心市街地活性化基本計画の内閣総理大臣認定を受けた。</p> <p>・第1回変更 平成25年3月28日 ・第2回変更 平成25年7月25日 ・第3回変更 平成25年11月29日 ・第4回変更 平成26年3月28日</p> <p>◆登載事業の事業着手及び進捗</p>	<p>・新図書館、新資料館の建設工事業者が決定。(5月)</p>
<p>27 近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進</p> <p>周辺市町村等とのネットワークを強化し、情報発信機能の強化やPR活動の充実、着地型観光の周遊ルートづくりを行うことにより、宿泊客の増加を図る。</p> <p>【(株)城西館等、高知市】</p>	<p>○民間事業者による着地型旅行商品造成の動きが、高知市内だけでなく周辺地域の自然や伝統文化、食材等の地域資源を観光資源に育てることへ繋がり、周辺地域の活性化へ寄与している。</p> <p>○高知市、南国市、香南市、香美市とそれぞれの観光協会で構成される高知中央広域観光協議会を組織し、周遊パンフレット作成や観光物産展実施などにより、広域的な視点による魅力づくりや情報発信の強化を図っている。</p> <p>◆近隣地域との連携の強化</p>	<p>・城西館の「とさ恋ツアー」の新商品開発に係る岡崎牧場との協議及び現地視察(4/4)</p> <p>・日本経済新聞四国版に城西館「とさ恋ツアー」掲載(5/30)</p> <p>・「とさ恋ツアー」の新商品開発に係る鏡ふれあいグループとの協議及び現地視察(6/25)</p> <p>・「とさ恋ツアー」の新製品開発に係るトマトの村との協議及び現地視察(6/27)</p>
<p>28 本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展</p> <p>年間を通じたよさこいの魅力を向上させることにより観光客の誘致を図るとともに、「よさこい」発祥の地としての地位の確立・ブランド化に取り組む。</p> <p>【高知市、(社)高知市観光協会ほか関係団体等】</p>	<p>○地方車用音響設備の整備(H23)</p> <p>○高知よさこい情報交流館の整備により、地元の人や観光客・全国各地のより多くの人に、よさこいの歴史や文化、その魅力を知ってもらうことで、よさこい発祥の地高知のPRに寄与している。また、隣接する「はりまや橋商店街」との連携を図りながら、商店街での定期的なよさこい鳴子踊り披露などを実施することで、よさこい情報発信を通じたにぎわいの創出を図っている。</p> <p>◆年間を通して「よさこい」で集客できるよう事業スキームの見直し</p>	<p>・高知よさこい情報交流館開館1周年記念セレモニーの開催(4/27)</p> <p>・はりまや橋商店街でのよさこい踊り披露(はりまやよさこい)</p>

アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと〉	指標・目標
<p>・販売実績(H26.2.19～H26.6.26) 総売上額47,411,781千円 (1日当り売上目標504千円)目標達成率73.36%</p> <p>※当初目標はCafé営業を当初の営業形態での販売額として設定しているが、平成25年度9月より経営効率化の取り組みとしてCaféの営業形態を変更(営業時間短縮・定休日の設定・セルフサービス化)している。</p>		<p>【指標】販売額 (H22.2.19～H23.2.18:89,181千円)</p> <p>【目標(H27)] 184,300千円</p> <p>【H26到達点] 184,300千円</p>
<p>・はりまや橋商店街において自主運営によるよさこい鳴子踊りの披露を実施、また、「高知まちゼミ」は昨年度は秋に1回の開催であったが、今年度は新たな店舗も加えて春に開催したこと等、新たな取り組みが始まり賑わいづくりに大きく寄与した。</p>		
<p>・中心商店街で開催されるイベントの情報発信により、多数の来街につながっている。</p>		
		<p>【指標] 高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数 (参考H22約123万人) (H21 約99万人)</p> <p>【目標(H27)] 112万人</p> <p>【H26到達点] 114万人</p>
<p>・高知よさこい情報交流館 入館者数:12,241人(4～6月末時点) 累計7万人達成(4/28) 累計入館者数:78,659人(6月末時点)</p>	<p>・高知よさこい情報交流館(6月末時点) 入館者数:12,241人(累計78,659人) 鳴子づくり体験:86人 よさこい踊り体験:1,641人</p>	<p>【指標] よさこい祭り来場者数 (H22:1,200千人)</p> <p>【目標(H27)] 近年の最高来場者数(1,200千人)の維持</p> <p>【H26到達点] 1,200千人</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<高知市地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>29 温泉開発による観光地としての魅力の向上</p> <p>観光目的として非常にニーズが高い、温泉を開発することにより、観光客の増加につなげる。</p> <p>【高知市旅館ホテル協同組合(高知市旅館ホテル温泉協同組合)】</p>	<p>○新規温泉開発によるビジネスモデルを検討</p> <p>◆新規温泉開発及びコスト、リスクの再検討</p>	
<p>30 浦戸湾を活用した観光の振興</p> <p>浦戸湾を活用した観光遊覧船の取組等により県内外からの観光客の誘客を図る。</p> <p>【特定非営利活動法人きらりこうち都市づくり】</p>	<p>○観光遊覧船は3隻体制で運航開始したH23年度の乗船客数は前年度より着実に増加。</p> <p>◆組織や運航体制の再構築</p>	
<p>31 土佐の偉人を活かした観光の振興</p> <p>坂本龍馬をはじめとする土佐の偉人ゆかりの地の魅力を高め、県外に情報発信するとともに、歴史、文化、町並みや食などを活用した「まち歩き」を充実させることにより県内外からの観光客の誘客につなげる。</p> <p>【高知市、(社)高知市観光協会、特定非営利活動法人土佐観光ガイドボランティア協会、長宗我部連絡協議会等関係団体】</p>	<p>○土佐っ歩はコースをリニューアルして参加者のニーズに対応したコースとなり、また、高知市郊外を巡る「土佐勤王党コース」及び「長宗我部コース」や高知の食の魅力を味わう「鯉のワラ焼きタタキコース」を設定する等魅力が向上している。</p> <p>○武市半平太旧宅と墓周辺の観光資源の磨き上げを行ったことにより、県内外からの観光客から好評を得ている。また、長宗我部関連イベントも定着しつつあり、当初の事業目的を一定達成することができた。</p> <p>◆まち歩きの更なる魅力向上と団体客の確保</p> <p>◆土佐の偉人関連施設の整備充実とルート化</p>	<p>・「龍馬に大接近」の実施(4/12~5/18)</p> <p>・第3回長宗我部まつり(5/18)</p> <p>・武市半平太例祭(5/11)</p>
<p>32 食による観光の推進</p> <p>高知市内で開催される「おきやく」や「豊穰祭」などの食イベントを定着・充実させること等により高知の強みである「食」を活かした観光を推進する。</p> <p>【土佐のおきやく推進会議、土佐の豊穰祭実行委員会、高知市観光協会ほか関係団体】</p>	<p>○新たなご当地グルメの取組については、一時高知市内9店舗で提供されていたが現時点では1店舗に減少となるなど、新たな食の創造につながっていないこともあり、今後の食に対する取組の見直しをする必要がある。</p> <p>◆食をテーマにした事業の再構築</p>	<p>・土佐の食1グランプリ開催(4月6日~4月7日)</p> <p>・2014土佐の豊穰祭第1回実行委員会(5月22日)</p> <p>・2015土佐のおきやく第1回推進会議(6月19日)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 観光遊覧船の乗船客数 (H22:5,899人) 【目標(H27)】 15,000人 【H26到達点】 -
・龍馬に大接近 来場者:約42,000人 ・長宗我部まつり 来場者:約8,000人		【指標】 「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」等への参加人数 (H23 1/1～12/31 3,790人) 【目標(H27)】 3,800人 【H26到達点】 2,695人